

令和5年度

帰国生入試

中学校 入学試験問題

国語

注意

- 1 合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 始めの合図があったら、解答用紙の決められたらんに、受験番号、氏名を記入してから始めなさい。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 解答は解答用紙の決められたらんに筆記具ではっきりと書き入れなさい。
- 5 試験時間は50分です。
- 6 計時機能以外の時計の使用は認めません。
- 7 試験中、体の具合や気分が悪くなったときは、静かに手をあげなさい。
- 8 終わりの合図があったら、すぐに筆記具を置きなさい。

【一】次の各問いに答えなさい。

問一 ①～⑤の——線部の読みをひらがなで答えなさい。また、⑥～⑩の——線部を漢字に直しなさい。

- ① 今年の梅の開花は例年より早かった。
- ② 畑にまいた種が発芽する。
- ③ 災害に備え、水と食料を買い置きする。
- ④ あなたは命の恩人だ。
- ⑤ 容疑者が犯行を自供する。

---

- ⑩ ウチユウ旅行も夢ではない。
- ⑨ ものもらいができて、ガンカを受診する。
- ⑧ ナれない環境にとまどう。
- ⑦ 赤信号でテイシする。
- ⑥ 野生のウサギのスアナを見つける。

問二 (1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の①、②の文章の( )に入る表現として正しいものを後のア・イから選び、記号で答えなさい。

- ① 握り寿司が考案された江戸時代当時は、一つの大きさが非常に大きくて食べづらかったため、二つに切り分けて食べられていました。そのため、今でも寿司は一皿に二貫乗っているのです。つまり、( )。

- ア 寿司が一皿二貫なのは、二つに切って食べていた時の名残です
- イ 寿司が人気になったのは、大きくて食べ応えがあったからです

② 物語の世界では、必ずしも私たちと同じ境遇きょうぐうにいる人が主人公であるわけではありません。ですから、主人公の気持ちを一〇〇パーセント理解できるとは限りません。しかし、だからこそ、自分とはちがう感じ方をしているのだということに気づけたり、自分が体験したことのないことを主人公の目線に立って想像することができたりするのです。物語は（  
）。

ア 読者を感動させる力を持っています

イ 読者の価値観を広げる力を持っています

(2) 次のAの文章を読み、Bの文が正しいか正しくないかを選びなさい。

《文章A》

SNSとは、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのことです。友人や、同じ趣味を持つ人同士といった、人と人とのつながりを促進そくしんし、支援しえんする役割を担っています。中には会員からの招待がないと参加できないものもあり、ある程度閉ざされた世界にすることで、密接な利用者間のコミュニケーションを可能にしています。一方、個人情報ぬすが盗まれ犯罪に巻き込まれたり、情報の信頼性しんらいに問題があったり、他者からの投稿とうこうで精神的に追いつめられたりと課題が多いのも事実で、使用する際は慎重しんちようになった方が良いでしょう。

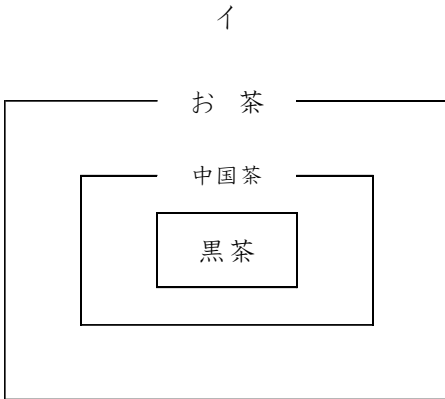
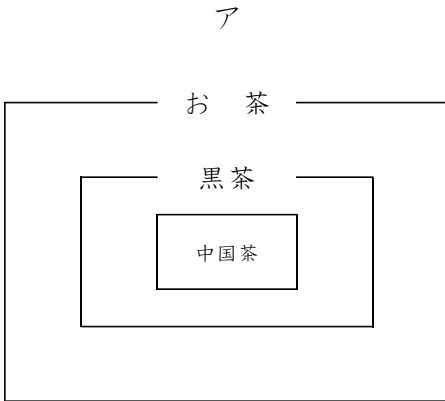
《文B》

SNSを使用する際は、限られた人同士の交流だからといって過信してはならない。

- ア 正しい                      イ 正しくない

(3) 次の文章を図に表したものととして、適切なのはア・イのどちらですか。記号で答えなさい。

お茶にはさまざまな種類がある。このうちプーアル茶は黒茶に入るが、これに花茶、白茶、ウーロン茶、黄茶などを加えたものが中国茶である。



【二】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

日本には昔から生け花がある。今では海外でもイケバナと言う日本語がそのまま通じるが、英語にしてフラワーアレンジメントということもある。しかし、日本の生け花と外国でフラワーアレンジメントと呼ばれるものは、どこか違う<sup>ちが</sup>のではないかと前々から思っていた。そこで、いつだったか、福島光加<sup>ふくしまこうか</sup>という草月流<sup>そうげつりゅう</sup>の花道家に会ったとき、

「生け花とフラワーアレンジメントはどう違うのですか」と尋ねてみた。<sup>たず</sup>

福島は日本在住の多くの外国人に生け花を教えているだけでなく、A 外国に出かけて指導もしている人なので、きつとこういうことに詳しい<sup>くわ</sup>だろうと思ったのだ。すると、B、

「フラワーアレンジメントは花によって空間を埋め<sup>う</sup>ようとするのですが、生け花は花によって空間を生かそうとするのです」という明快な答えが返ってきた。

そのとき、この答えは生け花とフラワーアレンジメントの違いをいっているだけでなく、日本の文化と西洋の文化の違いにも触<sup>ふ</sup>れているのではないかと思ったことを今でも覚えている。

(中略)

生け花は花を生かすと書くのだから花を生かすのいうまでもないが、「フラワーアレンジメントとどこが違うのか」という私の疑問に対する「花によって空間を生かす」という即答<sup>そくとう</sup>は花を生かすことによって空間を生かし、その花によって生かされた空間が今度は逆に花を生かすということなのだろう。

このように日本の生け花では空間は花によって生かすべきものであって、フラワーアレンジメントのように花で埋め<sup>つ</sup>尽くすものではない。花とそのまわりの空間は敵対するものではなく、互<sup>たが</sup>いに引き立てあうものとしてある。その花の生けられる空間というまでもなく私たちが呼吸をし、生活をしている空間である。それはそのまま、間といいかえて

いいものなのだ。

日本語の間という言葉にはいくつかの意味がある。まずひとつは空間的な間である。「すき間」「間取り」というときの間であるが、基本的には物と物のあいだの何も無い空間のことだ。絵画で何も描かれていない部分のことを余白というが、これも空間的な間である。

日本の家は本来、床と柱とそれをおおう屋根でできていて、壁というものが無い。これは部屋を細かく区分けし、壁で仕切り、そのうえ、鍵のかかる扉で密閉してしまいう西洋の家とは異なる。西洋の個人主義はこのような個室で組み立てられた家に住んできたからこそ生まれたというのはよくわかる話である。

それでは、壁や扉で仕切る代わりに日本ではどうするかというと、障子や襖や戸を立てる。「源氏物語絵巻」などに描かれた王朝時代の宮廷や貴族たちの屋敷を見ると、その室内は板戸や蓐戸、襖や几帳などさまざまな間仕切りの建具で仕切られてはいるものの、いたるところすき間だらけである。西洋の重厚な石や煉瓦や木の壁に比べると、何という軽やかさ、はかなさだろうか。

しかも、このような建具はすべて季節のめぐりとともに入れたりはずしたりできる。冬になれば寒さを防ぐために立て、夏になれば涼を得るためにとりはずす。それだけでなく、住人の必要に応じて、ふだんは座敷、次の間、居間と分けて使っていても、いざ、大勢の客を迎えて祝宴を開くという段になると、すべてをつないで大広間にすることもできる。このように日本人は昔から自分たちの家の中の空間を自由自在につないだり切ったりして暮らしてきた。

次に時間的な間がある。「間がある」「間を置く」というように、こちらは何も無い時間のことである。芝居や音楽では声や音のしない沈黙の時間のことを間という。

バッハにしてもモーツアルトにしても西洋のクラシック音楽は次から次に生まれては消えてゆくさまざまな音によって埋め尽くされている。たとえば、モーツアルトの「交響曲二十五番」などを聞いてみると、息を継ぐ暇もなく、

ときには息苦しい。モーツアルトは沈黙を恐れ、音楽家である以上、一瞬たりとも音のない時間を許すまいとする衝動に駆られていくかのように思える。

それにひきかえ、日本古来の音曲は琴であれ笛であれ鼓であれ、音の絶え間というものがいたるところにあって長閑なものだ。その音の絶え間では松林を吹く風の音がふとよぎることもあれば、谷川のせせらぎが聞こえてくることもあるだろう。ときには、この絶え間があまりにも長すぎて、一曲終わってしまったかと思っていると、やおら次の節がはじまるということも珍しくない。そんなふうには、いくつもの絶え間に断ち切られていても日本の音曲は成り立ってしま

う。

空間的、時間的な間のほかに、人やものごととのあいだにとる心理的な間というものもある。誰でも自分以外の人とのあいだに、たとえ相手が夫婦や家族や友人であっても長短さまざまな心理的な距離、間をとって暮らしている。このような心理的な間があってはじめて日々の暮らしを円滑に運ぶことができる。

⑥ こうして日本人は生活や文化のあらゆる分野で間を使いこなしながら暮らしている。それを上手に使えば「間に合う」「間がいい」ということになり、逆に使い方を誤れば「間違い」、間に締まりがなければ「間延び」、間を読めなければ「間抜け」になってしまう。間の使い方はこの国のもっとも基本的な掟であって、日本文化はまさに間の文化ということができるだろう。

⑦ では、この間は日本人の生活や文化の中でどのような働きをしているのだろうか。そのもっとも重要な働きは異質なものの同士の対立をやわらげ、調和させ、共存させること、つまり、和を実現させることである。早い話、互いに意見の異なる二人を狭い部屋に押しこめておけば喧嘩になるだろう。しかし、二人のあいだに十分な間をとってやれば、互いに共存できるはずだ。狭い通路に一度に大勢の人々が殺到すれば、たちまち身動きがとれなくなってしまうが、一人ずつ間遠に通してやれば何の問題も起こらない。

和とは異質のもの同士が調和し、共存することだった。この和が誕生するためになくならない土台が間なのである。<sup>⑧</sup>和はこの間があってはじめて成り立つということになる。

(長谷川 權 『和の思想』より)

★問題の中で指定する字数には、句読点、かつ二類をふくみます。

問一 — 線部①「どこか違う」とありますが、その違いを説明した部分を本文中から五十五字以内でぬき出し、最初と最後の四字を答えなさい。

問二 

A	B
---	---

 に当てはまる言葉として最も適切なものを次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア かならず                      イ たまたま                      ウ たちどころに  
エ おもむろに                      オ しばしば

問三 — 線部②「互いに引き立てあう」とはどのようなことですか。具体的に説明した部分を本文中から五十字以内でぬき出し、最初と最後の四字を答えなさい。

問題は次のページに続きます。



問 四

——線部③「西洋の個人主義はこのような個室で組み立てられた家に住んできたからこそ生まれた」とありますが、この文について四人の生徒が解釈を述べています。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A 西洋の人は、それぞれの部屋がしっかりとした壁で仕切られていて、小さい頃から独立した空間で過ごすことが多くなる。そのため、集団よりも個々人の考えを尊重するようになった、ということを行っているのではないかな。

イ 生徒B 西洋では、どの部屋に入るにも鍵かぎが必要で、家族といえども簡単に互いの部屋には入れない環境の中で生活している。だから、容易に他人を信じることができず、自分自身の考えを重視するようになった、と言っているんだよ。

ウ 生徒C 西洋の家は、外から完全に切り離された空間になっていて、人々はそうした安心した環境の中で幼少期を過ごしている。そこで、身の安全を守るのは、他の誰でもない自分であるという意識が強くなった、と言っているのだと思う。

エ 生徒D 西洋は、そもそも個人個人が何を考え、どう行動するかを重視する傾向にあるため、家を作るときにもそれが反映されてしまう。結果として、厳重に鍵をかけ、分厚い壁で仕切られた部屋を作るようになる、と言っている。

問 五

——線部④「日本の家」についての説明として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 空間を仕切るために、壁や扉ではなく障子や襖や戸を利用する。  
イ 西洋の家と比べると仕切りがすき間だらけで、仕切りの意味がない。

ウ 季節や必要にに応じてつけはずしできる間仕切りの建具を使用している。  
エ 家の中の空間を自分たちの思う通りに区切ることができる。

問六 ——線部⑤「一瞬たりとも音のない時間を許すまいとする」という表現を、フラワーアレンジメントに当てはめるとどのようなようになるか、考えて書きなさい。

問七 ——線部④「心理的な間があってはじめて日々の暮らしを円滑に運ぶことができる」の具体例として正しくないものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友達が校則違反いはんをしていたので、やめさせるために厳しく注意した。

イ 母に相談があつて家に帰ったが、母も何かに悩なやんでいるようなので今日は相談するのをひかえた。

ウ 結婚けっこんして新居を探す際、自分の時間ももてるように夫婦それぞれの部屋があるところにした。

エ 友人と激しいケンカをしたので、しばらくの間でできるだけ近づかないようにすることにした。

問八 ——線部⑦「和を実現させる」とありますが、これから入学する文化学園大学杉並中学校から「クラスの和を実現させるためのルール」を考えるようにという宿題が出されました。そのルールとなぜそれを設定したのかを説明しなさい。

問九 ——線部⑧「和はこの間があってはじめて成り立つということになる」とありますが、「間」が「和」を成立させるのはなぜですか。その理由を四十五字以内で説明しなさい。

【三】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(一)こまでのあらすじ)

小麦はケーキ職人として、「ハルタ」という店で春田シェフに学んだ後に自分の店を経営していたが、立地が悪かったこともあり店はつぶれてしまった。時を同じくして小麦は体調をくずし入院した。本文は、体調がある程度回復し、退院したあとの場面である。

髪を中学生の男の子のようなベリーショートに切りそろえてもらって、小麦は美容室を出た。ショーウィンドーに映る自分の顔は、つるりとして健康的な面持ちに見え、悪くはない気がした。

帰り際、駅前通りに交差する北伊豆銀座通りにふと自転車を乗り入れてみると、シックな装いのパティスリーが目に留まった。

駅近くに部屋を借りていたので、そういう店があることは何となく認識していたが、じっくりとどんな店なのか観察するようにはしていなかった。

〔中川洋菓子工房〕という店らしい。うちと名前が少し似ているなど、小麦は一人で微笑した。

店の構えは、茶系のシックなデザインでまとめられ、系統としては「ハルタ」に近い本格派の風情がある。

中に入ってみると、ショーケースに二十種類ほどのプチガトーが並べられていた。ショートケーキの代わりにフランス菓子のフレジエが並んでいるあたりに、本格派らしきこだわりがうかがえる。価格も四百円台が中心で、五百円台も二つ三つある。こんな地方の町で強気の店を作っても、それなりに成立するものなんだなど、小麦は感心しながらショーケースを眺めた。奥の厨房では三人ほどのパティシエが忙しく動いているし、何種類かのプチガトーは補充が必要なほどに減っている。まずまず流行っている店であるのは違いなさそうだった。

小麦はすっかり、ケーキを買って帰る気になっていた。それだけの食欲はある。それに、母は小麦を氣遣ってか和菓

子ばかりしか買ってこないの、こういう機会に自分で買わないことには、ケーキを食べることもなくなってしまおうだ。

迷った末に、シヨコラ・オランジェとカシス・マロンを買った。家に帰ると、母は「あら」と意外そうな顔をしながらも、口もとに笑みを浮かべて紅茶をいれてくれた。

「半分ずつね」

小麦は言いながら、まず、シヨコラ・オランジェのオレンジムース部分をフォークでつついた。

それを口に入れ、瞬間、あつと思った。

味が分かる。

今度はシヨコラ生地まで含めてフォークで取り、口に押しこんだ。

おいしいということだけでなく、酸味も風味も、舌から鼻にかけて大きなストロークで深く味わうことができる。

体調が回復するにつれ、口の中の荒れも収まり、食欲も戻ってきたのは分かっていた。富士見が丘の森で母が持たせてくれたいちごを口にしたとき、そのおいしさに涙が出てくるような感動を覚えた。だから、ひよっとしてとは思っていたが、ここまで味覚が戻っているとは思わなかった。

いや、身体が何ともなかった頃よりも、むしろ鋭敏になっている気さえしてくる。甘みのさじ加減もリキュールの香りも含め、味の全体像が余すところなく脳に立ち上ってくる。

「久しぶりに食べると、おいしいわね」母がA 鼓を打ちながら言う。

「うん……もうちょっと甘みがさっぱりしてもいいと思うけど」

小麦はそう言いつつ、カシス・マロンにも手を伸ばした。母はその様子を見て、くすりと笑った。

「今日行ってきた美容室、うちの隣でやってた人だったよ」

「セイボリー」さん？」

「そう。名前変えて、駅前やってんの。びっくりしちゃった」

「へえ」

「あそこは場所が悪かったって……今はそこそお客さん来てるみたい」

「へえ」

母は驚いたような声を感じ嘆混じりに出したあと、しばらく無言でケーキを食べていたが、ふとさりげない口調で訊いてきた。

「それでケーキ買ってきた？」

「それでって……？」

「小麦もやる気になって……」

「そういうわけじゃないけど……」小麦は微苦笑して首を振る。「何か食べたくなかったから」

母は伏し目がちな穏やかな表情で小麦の言葉を受け流し、紅茶をすすってから言った。

**B** が鳴るなら、たまには厨房で遊んでくれば……？」

「え……？」小麦はフォークを持つ手を止めた。「あの店……どうなってんの？」

「まだ、そのままよ」母が言う。

「え？ そのままにして家賃も払ってんの？」

「まあ、そうね」

母が何でもないことのように言うので、小麦は呆れて息をついた。

「もう……だから、お兄ちゃんにやってもらうように言ったのに……」

「あの子もいろいろ忙しいのよ」母はとぼけたような口調で言う。

「もったいない」小麦は **C** をふくらませて言った。

もったいないから、ちよつと久しぶりに覗いてみよう……ケーキを食べ終えた小麦は、母から店の鍵をもらって、また自転車に乗った。途中、スーパーで卵や生クリーム、無塩バターやチョコレートや果物などを買ひこみ、五週間ぶりにかつての自分の店にやってきた。

シャッターが下りた店はいかにも寂しげで、懐かしいというより、痛々しかった。怖いほどひっそりとしていて、物悲しさに満ちている。

小麦は裏口から入り、中のひんやりとした空気に小さな吐息を洩らした。ブレーカーは上がったままで、スイッチを入れると厨房の電気が灯った。

ポリバケツの中のゴミはきれいになくなっている。冷凍庫や冷蔵庫に残っていたはずの生地や材料の類も母が処分してくれたようだ。薄力粉だけは十分残っている。

まず作業台をきれいに拭いて、調理器具を洗い直すところから始めるか……小麦はそう思いながら作業台の片隅に買ってきた材料を置き、ふと手を止めた。

作業台に顔を近づけてみる。

埃がまったく見当たらない。

まるで、昨日まで営業していたかのようなのだ。

何週間も空けているのに……。

シンクの横に広げられた布巾に手を伸ばして分かった。かすかに水気に残っている。

母が掃除そうじしてくれていたのだ。

おそらく何度も。つい最近も。

小麦がいつ戻ってきててもいいようにだ。

とっくに処分できたものを……。

何て優しいんだらう。

思わず胸が詰つままって、きれいな作業台に涙がこぼれ落ちた。小麦は泣き笑いしながら、母の使った布巾でそのしずくを拭き取った。

オーブンに火を入れ、生地を作り始めた。

小麦には確認したいことがあった。

自分が売っていたケーキの味だ。

あずきロールとティラミスロール以外は「ハルタ」のショーケースにないものをあえて作っていた。当然、ルセットは自分で起こしたものだ。常識から外れた作り方はしていないので、それなりの味は保っているものと思っていた。ただ、自分の舌では、本当の意味ではその味を把握はあくできていないという意識があったのも確かだ。

春田シェフがここを訪ねてきたとき、口にしたケーキを評して、「べったりとした甘さが舌に残る」と言ったのがずっと引っかかっていた。「かといつて、重厚さや深いこくがあるわけじゃない」とも言っていた。それまで、そう言われるようなケーキを作っているつもりはなかったから、そこでまた自信をなくしてしまった。どうすればいいかも分からなかった。

甘さのバランスというのはなかなか難しい。春田シェフは伝統洋菓子にありがちな濃こい甘さより、さっぱりとした軽

い甘さを好むパーティシエだが、その彼かれにしても「単に砂糖を減らせばいいってもんじゃない」という言い方をしたりする。「菓子っていうのは、いかに砂糖をうまく使うかが勝負なんだ」というのも、彼からよく聞いた言葉だ。

だから、それは十分心得た上で、それなりの甘さが感じられるケーキを作っていたつもりだったのだが……どうだったのだろう。

ミルフィーユやショコラのシャルロット、フルーツタルトなどを作ってみた。静かな厨房の中での久しぶりのケーキ作りは、雑念が遠ざかり、ほとんど無心でいられた。身体がよく動き、生地やわの柔らかみや香り、果物の瑞々みずみずしさが五感を絶えず刺激しげきして、物を作る喜びひたに浸ることができた。

ケーキが出来上がったところで、早速、試食してみた。

⑦なるほど……。

自分の思い描えがいていた味とは違ちがう。

ミルフィーユは口の中で徐々じよじよに甘みが溶け出とすようなイメージを描いていたが、口に入れた瞬間に安い甘さが舌をつき、生地きの甘さを味わう頃にはくどくなってしまうている。

ショコラのシャルロットも全体的に重い。また食べたいという気にはならない。フルーツタルトはりんご※をキャラメリゼしたことで、べたついた甘みが強くなっている。もっと単純に作ってもよかった。

もちろん、基本は押さえているし、生地きの質感や香ばしきは、経験によって一定のレベルをクリアできている。作っておかしい品物ではない。ただ、自分が作れたかったケーキでもないていねいと分かった。

小麦は作業台の下にある引き出しから、各ケーキのルセットをまとめたノートを取り出した。

自分の作品集のつもりで書いたから、丁寧ていねいに分かりやすく書いてある。

何かを残そうと、夜の厨房で必死になって書いた。



けれど、今見ると滑稽こっけいでしかない。

オリジナリティがあるわけでもなく、自分が求めていた味とも違う。

これは捨てよう。

そして、体調がいうちに、一つでも二つでも、自分の味だと言えるルセットを書こう……。

そう思い立ったら、心こゝろにささやかな明かりが灯った気がした。

（しずくい 霽井 しゅうすけ 脩介 『つばさものがたり』より）

※ パティスリー — ケーキ店                      ルセット — 調理法。レシピ

キャラメリゼ — 砂糖などの糖類に熱を加え、焦げ色や香りをつけること

★ 問題の中で指定する字数には、句読点、かつこ類をふくみます。

問一 — 線部①「強気の店」とはここではどのような店のことを言っていますか。十五字程度で答えなさい。

問二 — 線部②「母は小麦を氣遣ってか和菓子ばかりしか買ってこない」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 小麦が病気による食事制限を受けていて、甘いものを食べる際に注意が必要だから。

イ ケーキ職人である小麦の作るケーキが、おいしくないことを知らせることになるから。

ウ 病気の後遺症こゆうししょうで小麦の味覚がなくなっていることを、思い出させてしまうことになるから。

エ 店がうまくいかなかったケーキ職人の小麦に、他の店の商品を買ってくることになるから。

問三 A C に当てはまる言葉を次のア～カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 腕うで    イ 耳    ウ 頬ほほ    エ 舌    オ 手    カ 腹

問四 — 線部③ 「その様子」とは小麦のどのような様子ですか。三十五字以内で説明しなさい。

問五 — 線部④ 「遊んでくれば」とありますが、

(1) 「遊ぶ」とはどのようなことを指していますか。十字以内で答えなさい。

(2) 母はどのような気持ちで「遊ぶ」という言葉を使ったと考えられますか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 何事にも楽しく取りこんでほしいという気持ち

イ 仕事以外の広い世界を知ってほしいという気持ち

ウ 小麦に圧力をかけないよう、そっと応援おうえんする気持ち

エ 家に引きこもっている小麦をかわいそうだと思う気持ち

問六 — 線部⑤ 「呆れて息をついた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 店の家賃をはらっていたのに、母親が誰だれにも言わず隠かくしていたから。

イ 店にはつらい思い出がたくさんあるのに、母親が手放さずにいたから。

ウ 店を借りたままにしておくためには非常に苦労するのに、母親が強がっているから。

エ 店を借りるのにはお金がかかるのに、母親が当たり前のように借りたままにしているから。

問七 — 線部④「小麦は泣き笑いしながら」とありますが、この時の小麦の気持ちとして最も適切なものを次のア

〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 小麦が再び調理場に立つことを信じて、一生懸命いっしょうけんめいつぶれた店の掃除をしてくれた母の娘むすめを思う優しさに、あきれながらもうれしく感じている。

イ 一度は閉店した小麦の店がいつかは再開すると信じて、毎日調理場の掃除をしてくれた母の気持ちを思っ  
って、申しわけなさを感じている。

ウ 病気で味覚が失われた小麦の復活を信じて、無理をしてまでつぶれた店を手放さないでくれていた母の  
思いやりに、心から感謝している。

エ 病に苦しみ経営に失敗した娘を気づかい、誰にも知られないようにつぶれた店の掃除を続けてくれた母  
の愛情を、重荷に感じつつもありがたく思っている。

問八 — 線部⑦「なるほど……」とありますが、このときの小麦の気持ちとして最も適切なものを次のア〜エから

選び、記号で答えなさい。

ア 病気のせいで味覚がにくくなってしまったため、自分が作りたかった味にはこの先もたどりつけないの  
だと絶望している。

イ 自分が思っていたような甘さが創り出せていないことを自覚し、以前春田シェフに言われたことに今に  
なって納得している。

ウ どれだけ集中してケーキ作りに取り組んでも以前ののような味を生み出すことができず、自分の練習不足  
を身にしみて感じている。

エ 店がつぶれたことを立地の悪さのせいにしていたが、ケーキの味が店に出せるレベルではなかったのが原因だったのだと思いは始めている。

問 九 — 線部⑧ 「心にささやかな明かりが灯った気がした」とありますが、この時の小麦の気持ちとして最も適切

なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 母が一生懸命手入れをしてくれた調理場は清潔で集中ができ、新しい菓子作りのアイディアがたくさんわいてくるため、今後の仕事の成功に期待を感じている。

イ 病気が改善されて気力も体力も復活することで、使い物にならない以前作ったレシピを捨てる覚悟ができたため、少しではあるが晴れやかな気分になっている。

ウ 体調が回復してより繊細な味覚がよみがえることで、自分の目指すべき味に向かって創作していこうとする気力がわいてきたことに、わずかな希望を感じている。

エ しばらく菓子作りから離れていたことで味覚がするどくなり、以前作ったレシピの欠点が明確にわかるようになったため、創作したい気持ちでいっぱいになっている。



凡例
1点
2点
3点
4点
5点
8点

受験番号
氏名
得点

〔一〕問一 ① うめ ② はつが ③ そなえ ④ おんじん ⑤ じきよう

⑥ 巣穴 ⑦ 停止 ⑧ 慣れ ⑨ 眼科 ⑩ 宇宙

問二 (1) ① ア ② イ (2) ア (3) イ

〔二〕問一 フラワーにするのです 問二 A オ B ウ

問三 花を生かすいうこと 問四 ア 問五 イ

問六 ほんの少しでも花のない空間を許すまいとする

問七 ア

問八 (省略)

問九

出	が	和
す	、	と
か	間	は
ら	は	異
。	相	質
	手	な
	と	者
	の	同
	距	士
	離	が
	か	調
	ら	和
	ま	し
	さ	共
	に	存
	そ	す
	れ	る
	を	こ
	生	と
	み	だ

〔三〕問一 値段の高いケーキを売っている店

問二 エ 問三 A エ B ア C ウ

問四

ど	ケ
ん	ー
ど	キ
ん	を
手	食
を	べ
伸	て
ば	、
し	そ
て	の
い	味
る	を
様	批
子	評
。	し
	な
	が
	ら
	も
	、

問五 (1) ケーキを作ること (2) ウ

問六 エ 問七 ア 問八 イ 問九 ウ